

課題名 硫黄剤、クレフノン散布青島温州の果面障害発生試験

成果の要約 硫黄剤、クレフノンを着色期に散布することによって貯蔵後の虎斑症及びしなび果の発生率が高くなった。

着色期に上記薬剤を散布した果実を、山間部の家屋ののき下にビニールで覆って12月20日より3月5日まで貯蔵し、3月8日に果面障害の発生を調べた。

(1) 油胞黒変症の発生は、無散布区において低い傾向にあった。

(2) 虎斑症及びしなび果の発生は散布回数の多い区ほど高く無散布区で最も低かった。

(発生指数の計算式)

$$\text{油胞黒変症} = \frac{(\text{軽}) \times 1 + (\text{中}) \times 2 + (\text{甚}) \times 3}{\text{全果数} \times 3} \times 100$$

$$\text{虎斑症、しなび果} = \frac{(\text{軽}) \times 1 + (\text{中}) \times 3 + (\text{甚}) \times 6}{\text{全果数} \times 6} \times 100$$

第1表 油胞黒変症の発生

処 理	発 生 率	程 度			発生指数
		軽	中	甚	
1 回 散 布	18.0%	15.3%	2.7%	0	6.9
3 回 散 布	17.3	17.3	0	0	5.8
無 散 布	14.0	13.3	0.7	0	4.9

第2表 虎斑症の発生

処 理	発 生 率	程 度			発 生 指 数
		軽	中	甚	
1 回 散 布	38.0%	14.7%	11.3%	12.0%	20.1
3 回 散 布	56.0	24.0	16.7	15.3	27.7
無 散 布	20.0	14.0	4.7	1.3	6.0

第3表 しなび果の発生

処 理	発 生 率	程 度			発 生 指 数
		軽	中	甚	
1 回 散 布	60.0%	16.0%	26.0%	18.0%	33.7
3 回 散 布	80.7	27.3	27.3	26.0	44.3
無 散 布	34.7	14.0	14.7	6.0	15.6

昭和57年度長崎県果樹試験場成績